

昭和26年1月15日この日は名実ともに成人の日である。我が神戸商大サッカー部もこの日を期して全国の神戸商大サッカー部と成人したわけである。即ち神戸高商より伝統をもった我がサッカー部はあらゆる予想を見事に覆して栄えある勝利を高丸にもたらししたのである。この日の感激は私にとって一生涯忘れえぬ思い出を残してくれた。格好の小春日和、数千人の観衆、数多の先輩方の見守る内に、正2時歴史の幕は切って落とされた。正面本部席横の得点板が10分・20分の0-0、0-0、と知らせる。ちょうど30分がでる数分前、今迄押しに押ししていた商大チームは早大の素早いパスに遂にゴールを割られた。どっと起る歓呼の早大陣、なにくそ負けるか！！これだけ押ししているのだという信念に燃えている商大イレブンはまだもや攻勢に出て、大半のボールを奪って試合を有利に導く。ハーフタイムのホイッスルが鳴る。先輩方の激励の中に、フィールドをチェンジした商大は後半もまたもや攻勢にでる。8分LWのロングシュートが出すぎた商大GKの頭上を抜いて又もや一点を追加。二点のリードを奪われる。ここに到ってはよもや商大の勝利を予想したものは誰しもなくであろう。しかしこれより、我々のたゆまざる練習の結果が表れてきたのである。即ち、23分早大RBを抜いた北村がゴール右隅に決まる鮮やかなシュートで一点を返す。続いて31分早大CHの反則によるPKで殿村軽く（でもなかった様だ、顔色が青黒かった。）を決めて2-2の同点に持ち込んだ。余すところ15分ばかり、早大チームに疲労と焦りの色が刻々と表われてくるのに反し、商大イレブンの意気益々軒昂。追うものの強味をもって追撃の手をゆるめない。しかし流石関東の雄、最期の力を振り絞って猛烈なる反撃にでるが、HB/CFの連絡悪く好機を逃していた。37・8分頃、商大FWが早大ゴール前で揺さぶった球が早大ゴール前に落ちたのをすかさず早大GKがキャッチするところ、商大CF三木弟ジャストメートのチャージを行えば球は転々として右へ流れる。それをRW渡部が強引に引掛けてゴール、遂にゲームを逆転させた。この時の喜びは最初に述べた如く恐らく一生二度と味わえないものであろう。そしてタイムアップのホイッスルが高らかにグリーンの上に鳴り響く。我々は勝ったのだ。とうとう関東の覇者早大を破ったのだ。先輩・後輩方の喜んでる顔が一人一人大きくクローズアップされ、それが段々とぼやけて見えなくなる。何時の間にか感激の涙が頬を伝っているのだった。我々は先輩方の永年の宿願だった関東を制覇したのだ。後輩達への何よりの置き土産をしたのだ。そして神戸商大として全国にその名を知らしめたのである。

これは我々が弛まざる練習をした事が一因であるが、それ以上に部長並びに先輩方の陰になり、日向になっての援助の賜物であったことは言を俟たない。私は学部第一回卒業生の主将としてこの機会に未だお会いしていない方々に厚く御礼申し上げます。また後輩方諸君は、この一旦築いた伝統を守ることを考えず、より以上の全国制覇を目的に置いて励まれんことを切望いたします。